

も、成功してアメリカン・ドリームを実現することができる。もし、アメリカ社会で哀れな地位にいるのは白人のせいだと責めることをやめるならば・・・。また、黒人の白人に対する犯罪の多くは、新聞には取り上げられないと指摘する。「黒人が白人に対する犯罪を嫌っていることは、多くの場合公表されないというのは賛成だ」と、読者も不平をもらす。ある読者は、「しかし、それを“私生”と言い、学校教育の悪さと犯罪率の高さが白人の人種差別が作り出したものでないというなら、他の星で暮らせばいい」「黒人が白人よりも人種差別主義者なんてナンセンスだ」。一方で、「アフリカ系アメリカ人は暴力犯罪を告発しているが、だからといって彼らが人種差別主義者だというわけではない」と他の読者はいう。(もし黒人が白人よりももっと人種差別主義者なら、黒人の人種差別は「憎しみが憎しみをよぶ」ことから発生したの

だろうと著者は指摘する。)

“The Ten Things You Can't Say In America”は、アメリカ社会のある規制事実について、再び考えさせられる興味深い本である。優れたリサーチをもとに、因習的な知識を批判し攻撃する。その文章は、真実をあばきながらときにはユーモラスに、興味深く、私たちに語ってくれる。

Elder, Larry.

“The Ten Things You Can't Say In America”

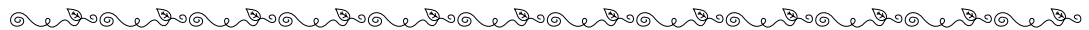
St. Martin's Press. 2000

ルイス・カナレス

(教授・ポルトガル語学・スペイン語学)

わたなべ きよこ

(英文翻訳家)



触れてみましたか？ 図書館のKISSに(24)

機械化推進委員会委員長 藤井達也

明けましておめでとうございます。

前号でお知らせした通り、昨年8月末に本館・検索台の5台のコンピュータを最新のTFT型の物に入れ替えました。検索台が広く使えるようになり、メモを取りやすくなったのではないのでしょうか。また、第2閲覧室には、新たに検索コーナーを設けて、3台のコンピュータを設置しました。使ってみた感想はいかがでしたでしょうか。

さて、今回は図書館システムNewLib(ニューライブ)で検索をする際に、知っておくと便利な豆知識をご紹介します。

まず、昨年1月から運用が開始された現在の利用者検索端末の画面には、もう慣れていただけましたでしょうか。最初は違和感があったかも知れませんが、以前の物よりは便利な機能が付け加え

られています。その代表的な機能であり、しかも気を付けなければならない機能があります。それは画面左上にある「全資料 和書 洋書 雑誌」を選択する箇所です。例えば「全資料」にチェックして書名に“essence”という語を入れて検索したら、21件ヒットしたとします。しかし「洋書」にチェックを入れて検索し直すと15件しかヒットしないことがあります。これは洋書なら洋書に限定して検索できるからです。因みに「和書」「洋書」「雑誌」でそれぞれ検索して、その合計が「全資料」の数値と一致します。特別な理由がなければ、「全資料」で検索して下さい。

次に、一度読んだ本をもう一度読みたいと思ったことはありませんか。あるいは、新着図書コーナーに並んでいたのだが、書名がはっきり思い出せないといった経験はありませんか。これを選けるには、面倒でも図書に記されている登録番号(6桁の数字)を控えておいて下さい。登録番号はその資料を特定するユニークな番号です。これを検索画面のフリーワードに入れて検索すると一発で目的の資料が出てきます。是非お試し下さい。